

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3490100165		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グル-ブホ-ム ふれあい段原		
所在地 (電話番号)	広島市南区段原山崎町三丁目6-1 (電話) 082-513-5586		
評価機関名	社団法人 広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1-6-29		
訪問調査日	平成21年10月23日	評価確定日	平成21年12月10日

【情報提供票より】(21 年 10 月 5 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 15.0 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	日額 2,800 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(10 月 5 日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85.6 歳	最低 74 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下山クリニック・ふれあいクリニック・マツダ病院・イ-スト歯科クリニック
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グル-ブホ-ムふれあい段原は、段原再開発地域に平成19年に開設された。1階にはデイサービスがあり、利用者同士と職員間の連携が図られている。入居者の方々は地域の人が多く、地域の人々との交流を深められており、地域に支えられる関係作りが築かれている。職員の育成には、人事考課制度(目標管理)を導入し、また介護知識や技術の向上を図るために「マイスタ-試験」の導入や、多くの職員が積極的に試験に挑戦する機会を設けるなどされており、法人全体で職員の育成に努力されている。当ホームでは母体組織の理念を基にして、ホーム独自の21年度重点方針を掲げ、これを全職員が目標を共有している。管理者と職員間の信頼関係も厚く、入居者を支える良好な環境づくりも出来ており、入居者一人ひとりのペースに合わせ、ゆったりと自由に暮らせる支援が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題はない。法人としての理念を全職員が理解・共有し、常に利用者サイドに立った介護サービスの提供が出来ている。管理者と職員の関係も非常に良好であり、入居者全員の表情も良く生き生きとされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 母体組織もこの自己評価・外部評価を重視されており、今回の外部評価も職員のスナップアップの機会として捉え積極的な取り組みが見られた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月毎に開催されている運営推進会議は、利用者・家族代表、地域住民代表(民生委員・児童委員等)地域包括支援センター・職員等、幅広い立場の人々が参加して、事業所からの報告とともに、参加者からの率直な意見や要望を受け、改善に向けた具体的な取り組みに繋げている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会や運営推進会議、及び家族の来訪時の機会を通じて要望や意見を把握されている。出された意見等は、運営推進会議での提案と改善、また内容によってはグル-ブミ-ティング等を開催し、家族からの苦情・不安への対応と改善に繋げている。また、家族の意見収集の方策として、意見箱等の設置も検討されている。
重点項目	地域での行事に積極的に参加し、地域住民との交流に日頃から取り組んでいる。今年度は、町内会の班長を務める等、事業所と地域の人々が支えあう関係作りに積極的に取り組んでいる。さらに近隣の中学校から職場体験の生徒の受け入れを行いながら、地域資源との協働関係の構築を目指されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織の理念を具体的なケアにつなげるために、母体組織の実践目標が設定され、それを踏まえ各事業所ごとに年度重点方針を管理者・職員全員がブレ－ンスト－ミング法を用いて事業所独自の理念をつくり、日々の新しい介護サ－ビス実践に取り組まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	母体組織の理念を掘り下げて、全職員が話し合って事業所の実践目標を策定し、朝礼時に唱和を行ったり、ミーティングなどを通じて確認し合うようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入され、今年度は組長として地域活動に努められている。また、地域の行事等にも積極的に参加したり、事業所で行う行事(納涼祭)にも多くの近隣の方たちが参加されるなど、積極的な交流に取り組まれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価と外部評価の意義は全職員がよく理解した上で取り組まれており、その結果を踏まえて新しい介護サ－ビスの確立と実践に活かされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に行われている。会議では、事業所の行事などの様子を写真・パソコンでまとめて、出席者に報告されている。また、出席者からの意見・提案も積極的になされており、議事録も良く管理されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南区役所、介護保健室・健康長寿課等関係部門との定期的な情報交換もなされ、地域包括支援センター・民生委員との交流も積極的に行いながら、入居者の介護サービスの向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の方の来訪時には、入居者の様子やエピソードなどを詳細に伝えたり、他には年数回発行される”ふれあいたより”や、毎月送付される請求書とともに、担当者が入居者の近況を自筆でしたため、スナップ写真と共に同封して、ご家族にお知らせを行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議で出された意見等は、その要因を全職員が話し合っ事業所の運営改善に取り組まれている。今後は、意見箱等を設置し、さらにご家族の意見吸収に努められる予定。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない法人内の定期異動や新設事業所への配置等で、異動がある場合は入居者に支障がないようにその時期や引継ぎの面で配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体組織には研修委員会があり、内部研修(ステップアップ研修)や職員の教育・育成には熱心に取り組まれている。また、全事業所の職員には、年一度の”マイスタ - 試験”なども実施されており、職員もスキルアップのために積極的に挑戦されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に関連の事業所や他の事業所と交流する機会を持ち、事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしている。また、研修報告会は必ず実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学してもらうことから始め、本人が職員やサービスの場に徐々に馴染みながらスムーズに移行できるように支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の喜怒哀楽を素早く的確につかみながら、可能な限り長く入居者に接し、共に生活をし、出来ることはご自分で行って頂けるような支援がなされている。また、入居者の方々の表情も良く、生き生きと自分の出来ることに取り組まれている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃の関わりの中で、入居者の希望や意向を会話の中から聞き取りながら、一人ひとりに合わせた暮らしが出来るように柔軟な支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員は日頃の関わりの中で、入居者と家族の意見を聞き出し、それらを参考にしながら介護計画が作成されており、このことは管理日誌等を通じ全職員は一人ひとりの支援の目標を共有している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に介護計画は6ヶ月を目安に作成されているが、入居者の状況変化や家族の要望などが発生した場合には、随時新たな計画を作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の要望や家族の要望を的確に把握しながら、柔軟に対応している。また、入居者のその時々要望や変化に対応出来るように、関連の医療機関や介護施設等と協力しながら支援が出来る体制も出来ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿って、母体の医療機関による週に一度の定期検診や、月二回の眼科・耳鼻科・歯科への受診が実施されており、健康管理にも気配りされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には終末期の方針を伺い、書面でも説明しているがまだ看取りは行っていない。事業所と御家族用の緊急時の対応マニュアルは作成されており、医師・看護師から対応の助言などの研修も行われている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーや尊厳についてよく理解し、言葉遣いや態度に気を配りながら支援が行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先でなく、入居者のペースや体調に合わせてながら、一人ひとりの心に寄り添った生活支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には入居者の方々の希望されるメニュー - を取り入れたり、食事の準備や片付けを本人の能力に応じ可能な限り職員と行いながら、張り合いのある楽しい食事となるようにしている。また、食事の前には全員で嚙下を良くするお口の体操を行い、入居者と職員は同じ食事を語り合いながら楽しく食している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日を定めず、入居者のこれまでの生活習慣や希望にあわせ、柔軟な入浴支援を行っている。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴をよく把握した上で、家事や趣味等本人に合った役割を見つけながら、支援を行っている。また、ドライブや散歩・買い物など気晴らし支援が行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広島市の再開発地域であり、まだ地域に公園など整備されていないが、日常の買い物に同行されたり、天気の良い日にはホ - ムの周辺の散歩等積極的な外出支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛けることの弊害を理解し、入居者の自由な暮らしを支えるために日中は鍵を掛けない方針で、ケアに努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	新設のグル - プホ - ムだけに、消防施設はスプリンクラー - を始め全て完備されている。ホ - ム内での消防訓練も定期的実施されているが、ホ - ムの共通の課題である夜間の避難体制の確立、特に地域住民の支援・協力の基での避難マニュアルの作成が望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事や水分の摂取状況は、毎日介護記録で把握し、職員は情報を共有しながら一人ひとりに合った支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓が行き届いたホームの中は、日当たりも良く、明るくゆったりとした共用空間となっている。リビングには花を飾り季節に合わせた飾りを置き、畳のスペースも設け少しでも家庭に近付けるような工夫がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら居室内の家具や持ち物は、ご本人の使い慣れた品を配置し、その人らしく過ごせる部屋となるよう配慮されている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームふれあい段原 もみじ

評価年月日 21 年 9 月 30 日

記入年月日 H21年 9月 30日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 介護職 氏名 田森 文

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	・年に1度 管理者、職員でブレインストーミング法を用いて、各ユニットの理念を作成している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	・各ユニットのリビングと職員トイレに法人の理念を掲げ、全員が共有できるようにしている。また、理念を朝礼時に唱えたり、会議や研修で具体化し、実践に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	・法人理念をリビングに、ユニット理念を玄関に掲げ、誰もが目にする事の出来るように掲示し職員全員で取り組んでいる。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	・地域の交流会に参加させて頂いたり、運営推進会議や見学の方が来所された際には、いつでも立ち寄って頂けるよう声をかけている。 ・近隣の方への挨拶は必ず行うことを基本とし交流を持つよう心掛けている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	・町内会に入会し、班長として活動しています。町内清掃等の地域の行事にも率先して参加するなど、積極的に地域の方々と接点を持つよう努めている。 ・グループホーム祭りにも参加して頂いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	・介護等に関して困った事がある時には、気軽に立ち寄ってもらえるよう、包括や町内会長にグループホームの存在をお知らせ頂いている。 ・スタッフの知識向上の為、研修会等に積極的に参加している。		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	・自己評価、外部評価の意義や活用は職員全員が理解し、取り組んでいる。また、改善すべき点は積極的に行うなどして、サービスの向上に生かした取り組みを行っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・運営推進会議は2ヵ月に1度行い、グループホーム内で撮影した写真をパソコンでまとめ、会議で見たり、参加者と話し合いの場を設けている。頂いた意見は早急に改善できるよう取り組んでいる。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	・地域行事や手伝い等がある際には連絡頂き、参加していく方針。現段階では、町内会が発足したばかりで、行えていない。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	・個別には研修会等に参加しているが、全体としての学習の機会を設けていない。	○	・成年後見制度を利用している方がいる為、今後、全職員が理解できるような研修をしていく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・研修等で高齢者虐待法について学ぶ機会を設けている。身体拘束、虐待防止委員会を作り、職員の虐待防止への意識を高めている。会議・研修内容は議事録にて全職員に周知させている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・契約書や重要事項説明書に基づき、入居者及び家族に十分な説明を行い、不安・疑問点について伺っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	・入居者様一人ひとりに担当をつけ、個別にゆっくりと話をする時間を作っている。他の職員とも話しやすい環境作りに努め、意見や苦情から要因を探り、課題を検討している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	・入居者様個々の状況を、ご家族の来訪時に伝えたり、毎月のお便りや機関紙等で報告を行い、変化があれば個々に話し合いの場を設けている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・現段階では行えていない。 (家族会での意見交換と、運営推進会議での代表者家族の意見を聞く機会はある。)	○	・今後は意見箱等を設置し、ご家族全員の意見を取り入れる事ができるようにしたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・月に1度フロアミーティングを行い、業務に関する意見や改善案を出し合い、フロア状況に合わせて対策をとっている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	・可能な限り、管理者・ユニットのリーダーのどちらかが日勤帯で勤務し、入居者様や家族の状況の変化や要望に柔軟な対応ができるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>・職員や入居者様のユニット間での行き来を頻繁に行ったり、全体での行事を開催する事で、交流を持ち顔見知りの関係を作っている。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>・法人内に研修委員会があり、内部研修（ステップアップ研修）を行っている。 ・外部研修に関しても、研修費補助や勤務内参加ができ研修に参加しやすい体制がある。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>・法人内での6グループホームが集まって意見交換等を行っているが、他事業所とは行っていない。当法人のホームの紹介を兼ね、関係事業所への訪問を行い始めた。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>・法人内のグループホームの職員同士で情報交換を行っている。 ・定期的に、また随時相談を受ける事ができる体制がある。個人面談も行っている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>・マイスター制度を導入し、年に1回筆記・実技試験を施行し、技術・知識の向上を目指している。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>・可能な限りご本人様から状況を伺い、少しでも不安を取り除けるような対応ができるよう努力している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	・ご家族から十分に話を聞き、安心して任せて頂けるよう、意向や不安を伺っている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・他のサービスの情報も、可能な限りお知らせできるように、居宅支援事業所と協力している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	・入居前に何度か訪問したり、グループホームに来所頂いたりしながら、職員やホームの雰囲気に慣れて頂けるようにしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・可能な限り、共に生活をし、出来る事はご自分で行って頂けるような支援をしている。 ・見守り、寄り添い、支え合う関係を築きながら支援している。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・ご本人の状態を細かくお知らせすると共に、その時々不安や心配事を聞き、ケアの方向性を一緒に考えている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	・センター方式を導入し、過去の出来事や関係を把握し、より良い支援を目指している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>・馴染みの方がグループホームに来所しやすい雰囲気づくりや対応を行い、人とのつながりを絶やさないようにしている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>・入居者間に入り、会話を促したり良い関係が築けるよう支援している。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>・継続的な関わりを必要とするケースはないが、退去された方のご家族には、定期的に機関紙等を郵送させて頂いたり、大きな行事への参加の声掛けをしている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
1 一人ひとりの把握				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>・入居者担当が、密な関係を作れるよう努力し思いを聞き出すようにしている。自身の思いが伝えにくい方には、何を希望されているのか把握できるよう努力している。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>・センター方式の導入により、ご家族やご本人から生活環境を伺ったり、生活の場面から見つけ出せるよう努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>・日常の生活の場面から、ご本人様の好み、得意な事、生活のリズム等を把握し、ご本人様ができる事を生かしたケアプラン作りをしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・全体で話し合う機会は設けていない。 ご本人、家族、職員間それぞれに時々で意見を聞き出し、それを基に介護計画を作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	・期間に応じて見直しを行っている。 ・入居者様に変化が生じた時には、新たな計画を作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・できる限り詳細で分かりやすい記録を心掛け、その記録を基に各担当が介護計画を立てている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	・可能な限り、ご本人やご家族の要望に沿えるよう努めている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	・ボランティアの方に来所頂いたり、警察や消防にも協力頂いている。(防災訓練等)		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	・今までに何度か話し合いを設けた事はあるが、実際の利用には至っていない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	・現段階では事例はないが、必要性が出た場合には協力を頂けるよう、常に連携をとっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	・定期検診や週に一度の往診にて、ご本人の訴えや職員の話、しっかりと聞いて頂き連携を取っている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	・かかりつけ医によって行われている。 ・何かあれば、職員が医師に相談できる体制ができています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	・週に一度訪問看護に来て頂き、健康管理や相談体制は整っている。 ・24時間体制で看護師と連絡が取れるようになっている。 ・医師や看護師との連携はとれている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	・入院時は衣類の交換に行った際に状態を伺い、経過を観察したり、ご本人と話をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>・入居時に口頭で終末期の方針を伺っているが、十分ではない。</p>		<p>・書面での確認も必要ではないかとの指摘を受け、現在検討中。</p>
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>・施設用とご家族用の緊急時の対応マニュアルを作成し急変時に慌てないように準備をしている。 ・看護師より、緊急時の対応の助言を頂いたり、研修をして頂いたりしている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>・グループホームから別の場所へ移り住む際には、できるだけ詳しく情報をまとめ、お伝えするようにしている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>・トイレや浴室を使用する時には扉を必ず閉めるようにしている。また、その場にふさわしい言葉かけができるよう努力している。 ・記録類はスタッフルームより持ち出さないよう徹底している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>・できるだけご本人と向き合う時間を作り、できる事はご自身で考えて行って頂くケアを基本としている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・可能な限り、その人の生活やペースに合わせよう努力している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	・毎朝、身だしなみを整えて頂けるよう支援している。 ・外出の際や行事の際に口紅をひいたり、その場に合わせた服と一緒に選んでいる。 ・訪問理容に来て頂いているが、ご希望の方は別の美容院に行かれています。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・入居者様と職員がリビングで同じ食事を頂き、心身ともに満足して頂けるよう支援している。 ・食事の準備や片付けは、その人の能力に応じて可能な限り一緒に行っている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	・行事等では酒類を提供する事もあるが、普段の生活で飲酒されている方はいない。 ・入居者様と一緒におやつを作ったり、抹茶をたてて頂いたり、楽しんで頂ける様に支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	・基本として、出来る限りオムツは使用していない。 ・紙パンツもできるだけ使用せず、パットや布パンツで対応している。 ・個別の排泄パターンを把握し、誘導している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく希望される曜日や時間での入浴をして頂いている。 ・基本は午後からの入浴となっているが、状況に応じて午前中にも入浴して頂けるよう、支援している。 		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・日中は、ご本人の体力や体調に合わせて休んで頂き、ご自身で判断が困難な方は必要に応じて臥床時間を作り対応している。 ・リビングにソファや畳を置き、休憩できるスペースを提供している。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・家事や趣味等、ご本人にあった役割を見つけ、日課として行って頂けるよう支援している。 ・誕生日会や、月に一度行事を行ったり、散歩やドライブにも積極的に出ている。 		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・希望や能力に応じて、ご本人管理としている。 ・必要な時には買い物ができるよう、ご家族にも協力して頂いている。 		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物に同行して頂いたり、散歩やドライブ、花の水やり等、少しでも外に出られる工夫をしている。 		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・皆で楽しめる場所には外出行事として遠出をしたり、仲良し数人で美術館や食事に出かけたり、お弁当を持って出かける等、出来る限り外出の機会を作っている。 		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・希望があれば、電話をかけて頂いたり取次ぎを行っている。 ・手紙を書かれる方は、ポストまで一緒に出しに行ったりといった支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	・来訪者と話ができるスペースを作っている。 また、各フロアの玄関までの見送りや、必要に応じて1階の玄関まで入居者様とお見送りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・身体拘束廃止委員会による、ケースに応じたミーティングを開催している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	・施錠はせず、玄関に鳥の声のセンサーを設置し、出入りの際に注意を払える環境を作っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	・入室時には必ずノックをして入室する。 ・不在の場合には許可を得て入室する。 ・夜間は定期的に巡回し、安全確認をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	・入居者様の状態に応じて、テーブル等の家具やキッチン周辺の物の配置を変えている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止マニュアルを作成している。 ・事故が発生した際には、事故報告書を記入し、原因を分析し解決策を検討している。また、1ヶ月後に再評価を行い、事故防止に取り組んでいる。 		
70	急変や事故発生への備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の緊急対応マニュアルを作成し、個別記録に綴っている。 ・内部研修で、緊急時の対応について学習しているが、訓練は行えていない。 		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム内での消防訓練は定期的に行っているが、地域への働き掛けは行えていない。 		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じてその都度ご家族に説明をし、解決策を検討している。 		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝のバイタルチェックを行っている。 ・日頃から、入居者様の様子観察を行い、小さな変化も見逃さないように努めている。 ・記録への記入と共に、報告・連絡・相談を心掛けている。 		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の目的・用法・用量について、完全には理解できていない。薬の変更があった際は記録に残し、全職員が把握できるようにしている。 ・誤薬のないよう、また確実に服薬できるよう支援している。 		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・便秘の影響や予防については、研修等で理解している。 ・朝食時に牛乳を提供し、朝食後にトイレに座って頂いている。 ・体操を行うなどして、なるべく運動ができるよう支援している。 		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、歯磨きの声掛け・誘導を行っている。 ・その人の状況に合わせて、必要な介助を行っている。 		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・水分量を記録し、1日1300ml以上を目標に提供している。 ・一人ひとりの好みに合わせた飲み物や、ゼリーを提供し、水分を摂取しやすいよう工夫している。 		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・各マニュアルを作成している。 ・保健所や広島市からの資料や、法人からの通達は閲覧後にファイルしている。 ・来訪者への手洗い・うがいを徹底している。 ・インフルエンザ予防接種・肺炎球菌ワクチン(希望者)の摂取を予定している。 		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・キッチンでは履物を変える ・調理前・食器に触れる際は手洗い・消毒をしている。 ・肉・魚・野菜・生モノ用の包丁とまな板を用意し使い分けている。 ・冷蔵庫内も分別して保存している。 ・食品の在庫は極力置かないようにしている。 		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・花壇に花を植えたり、少しでも在宅の雰囲気が出せるよう工夫している。 ・玄関に入居者様の表札を出している。 ・1階がデイサービスの為、案内を掲示している。 		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングに花を飾ったり、季節に合わせた飾りを置いたりしている。 ・畳のスペースを設け、少しでも家庭に近づけるよう工夫している。 ・カーテンで光の調節をしたり、テレビや音楽の音量が不快にならないようにしている。 		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファや畳を設置し、好みの場所でくつろげるよう工夫している。 		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・居室内の家具や持ち物は、ご本人の使い慣れた物をお持ち頂くようお願いし、居室に畳を使用したり、なるべく以前の住まいに近い形で過ごして頂けるようにしている。 		
84	<p>換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないように換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共用スペースはもちろん、こまめに居室に訪問し、温度を適温に保つようにしている。 		
<p>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>・車イストイレの手すりは安全で、身体機能を生かせる作りになっている、 ・リビングの椅子やテーブルの高さを一人ひとりに合わせて調節し、正しい姿勢で食事や活動ができるようにしている。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>・日常生活の中で、出来る事・得意な事ややって頂き、自信をつけ、自立した生活が送れるよう支援している。</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>・花壇に花を植えて、入居様と水やりや手入れを行っている。</p>		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームふれあい段原 さくら

評価年月日 21 年 9 月 30 日

記入年月日 H21年 9月 30日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 介護職 氏名 山田 とみ子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	・ブレインストーミング法にて各ユニットの理念を作成している。 ・年に一度の更新をしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	・各ユニットリビングに法人理念を掲げ、職員全員が共有できるようにしている。 又、朝礼時に唱えたり全体会議にて具体化し、実践に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	・法人理念・ユニット理念をリビングとユニット入口に掲げ、どなたにも見て頂けるようにし、家族会や広報誌にも掲示している。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	・地域交流会に参加させて頂き、見学や運営推進会議の場にいつでも立ち寄って頂きたい旨、お伝えしている。 ・近隣の方々へ必ず挨拶を行い、交流を持つよう心掛けている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	・町内会に入会し町内の方々との交流を深めている。(今年度は当番をさせて頂いている) 今後も地域の活動には積極的に参加していく方針。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・包括支援センターや各町内会長様にグループホームの存在をお知らせし、地域の皆様が介護等に関してお困りの場合、気軽に立ち寄って頂けるようにしている。 ・職員は知識・技術向上の為、研修会等には積極的に参加している。 		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価の目的や意義を全職員が十分に理解できるよう周知し、昨年度の理解不足を補うようにしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・評価を活かし具体的な改善に取り組んでいく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヵ月に一度の会議に備え、間2ヵ月の生活状況や実施された行事等を写真に収め、パソコンで編集し、会議で見ている。 ・貴重なご意見については早急に対応できるよう取り組んでいる。 		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事には可能な限り参加させて頂いているが現段階において、まだ不十分である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・機会を増やしサービスの質の向上を目指す。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・制度を利用されている入居者様が1名職員は研修会等に参加し、知識・理解を深めている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が熟知できるよう取り組む。又、必要な方への活用を支援できるよう取り組んでいく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止委員会にて定期的に会議を開催し、虐待が見過ごされることのないよう、防止に努めている。 ・会議内容は議事録にて全職員に周知徹底させている。 ・職員は研修会等には積極的に参加している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・研修会や勉強会に継続して参加をし、防止に取り組む。
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・契約書や重要事項に基づき、説明をさせて頂いている。変更等生じた場合にも随時お知らせし、説明を重ねている。 又、疑問点や不安等を伺い、ご理解・納得を頂けるよう説明を図っている。 		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様には職員を担当制とし、個別支援に努めている。担当に話にくい事は、他の職員に話せるよう、環境作りや配慮に努めている。 又、日頃より信頼関係の構築に力を注いでいる。 		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一度、担当者が生活状況等を手紙に記入し、ご家族への請求書と共に送付している。 		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・現段階では行えていない。 (家族会での意見交換と、運営推進会議での代表者家族の意見を聞く機会はある。) 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は意見箱等を設置し、ご家族全員の意見を取り入れる事ができるようにしたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一度、又は随時フロアミーティングを行い、職員の意見や改善策を検討・状況に合わせた対策・改善へと反映させている。 		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化，要望に柔軟な対応ができるよう，必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	・ユニットの管理者や計画作成担当者のどちらかが、可能な限り日勤帯で勤務し、来客・要望・相談に対応できるようにしている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	・職員や入居者様がユニット間の行き来を頻繁に行うことで、馴染みの関係が築かれ、支援に結びつくよう努力している。 ・ユニット間の職員異動は、入居者様へのダメージを最小限度に抑えることを念頭に置き、行われている。		・職員のスキルアップ・柔軟な対応力を養うためにも、適宜フロア異動を行っていききたい。
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・法人内に研修委員会があり、内部研修（ステップアップ研修）を行っている。 外部研修に関しても研修費補助や勤務内参加があり、研修に参加しやすい体制が整っている。		・職員は積極的に参加していく。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・法人内での6グループホームが集まって意見交換等を行っているが、他事業所とは行えていない。当法人のホームの紹介を兼ね、関係事業所への訪問を行い始めた。		・交換研修等を通じ、サービスの質の向上を目指す。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	・研修会等で集う機会を通して、法人内各職員同士で情報交換を行い、ストレスの軽減に役立つようにしている。 又、随時・かつ定期的に相談を持ち込める体制を整え、個人面談も行っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，各自が向上心を持って働けるように努めている。	・マイスター制度を導入・年に一度筆記・実技試験が実施され、知識・技術の向上を図っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	・可能な限りご本人から状況を伺い、受けとめ、少しでも不安を取り除けるよう努力している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	・ご家族から不安や意向等十分に話を伺い、受けとめ、安心して任せて頂けるよう努力している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・居宅支援事業所と協力・連携をとり、他のサービス利用情報も可能な限りお知らせできるように努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぐに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	・ご本人に安心して頂けるよう、入居前に何度か訪問をし、グループホームに来所頂いたりしながら、徐々に馴染んで頂けるよう、ご家族と相談しながら工夫をしている。		

2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・可能な限り共に生活をし、主体性のある時間を過ごして頂けるような支援をしている。 ・寄り添い支えあう関係の構築を目指している。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・その時々のご本人の状態・状況を細かくお知らせし、ご家族の不安や心配事を伺い、共に支えていけるケアの方向性を一緒に考え、身近な関係を築けるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	・センター方式を導入・作成し、ご本人の物語に沿ったその人らしい生活の支援を目指している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・馴染みの方々が来所しやすい雰囲気作りや対応を行い、関係を絶やさないように努めている。		・馴染みの場所提供に関しては、サービスの提供が不十分。 ・少しずつ機会を増やしていく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	・入居者様が孤立されないよう、職員が間に入り、より良い人間関係作りを努めている。 又、入居者様同士が関わり合い支え合えるような、環境作りにも努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	・継続的な関わりを必要とするケースは出ていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・各担当者が密に寄り添い、ご本人の思いを十分に聞き出すことができるよう努力している。 場合によっては、職員を変え、ご本人の思いを汲み取る努力をしている。		・思いを伝えることが困難な方に関しては、ご本人がどのような生活を望んでいるのか可能な限り把握できるよう努力している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・センター方式を活用することにより、ほぼ把握できている。 又、ご家族やご本人からも話を伺い、現生活場面からも見つけ出せるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	・ご本人の出来る事・力を活かしたケアプランが作成できるよう取り組み、日々の生活状況の把握に努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・全体で話し合う機会は設けていない。ご本人・ご家族・職員間、それぞれその時々で意見を聞き出すようにしている。 ・それを基に介護計画を作成している。		・ご本人・ご家族を交えケアカンファレンスを行っていきたい。 ・すでに行った方もいるが少ない。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	・期間に応じて見直しを行っている。 ・変化が生じた場合は必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・詳細な記録を心掛け、その記録を基に各担当者が介護計画を立てている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	・可能な限りご本人やご家族の要望に沿えるよう努めている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	・ボランティアの方に来所頂いたり、警察や消防にもご協力頂いている。(防災訓練等)		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	・今までに何度か話し合いを設けた事はあるが、実際の利用には至っていない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	・現段階では事例はないが、必要性が出た場合には協力を頂けるよう、常に連携をとっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	・週に一度の往診を受け、ご本人の話や訴えに沿った適切な医療が受けられるよう支援している。 又、かかりつけ医と事業所は、連携を図り納得が得られた関係を築いている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	・かかりつけ医によって行われている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	・週に一度の訪問看護にて健康管理が行われている。(24時間体制で連絡が取れるようになっている) ・看護師との連携はとれている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	・入院時には安心して入院生活を送って頂けるよう、又できるだけ早期の退院にむけ、ご本人・ご家族・病院関係者と話し合う機会をつくり、連携に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	・ご家族やかかりつけ医と話し合いを繰り返し、方針を共有できたが、ご本人様との話し合いには至らなかった。(終末期ケアが行われた)		・ご本人様との早期話し合いは今後の大きな課題。
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	・ターミナルケアをチーム一丸となってどのように支援していくのか、具体的な取り組みは行われていない		・勉強会やミーティングを重ね、早急に検討・準備の必要がある。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	・リロケーションダメージに十分配慮した居室作りを行い、使い慣れた家具をはじめ、馴染みの物をできるだけ多く持ち込んで頂いている。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p> </div>				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	・その場にふさわしい言葉かけや対応を目指し、接遇委員会を通し定期的に伝達している。 ・個人情報の取り扱いには十分に気をつけ、記録物はスタッフルームより持ち出さないよう徹底している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	・ご本人と向き合う時間を作り、自己決定の基本支援を目指している。 ・主体性のある生活をして頂けるようなケアを目指している。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・その人の思いを尊重し、その人らしい暮らしができるよう支援している。 又、可能な限りペースを合わせ、希望に沿えるよう努力している。		・可能な限りペースを合わせる努力をしているが全てにおいては困難である。 ・今後もその人の思いを大切に、出来るだけ希望に添えるケアを目指したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	・毎月一回訪問理美容を利用させていただいている。 ・ご希望の方は別の美容院を利用されている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・買い物から食事の準備、配膳・下膳・片づけまで可能な限り入居者様と共に行うようにしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	・行事等においてお酒を提供する場合もある。 又、普段の生活の中でご希望に沿って少量のお酒を提供する場合もある。(ご家族の承諾あり) ・現在喫煙をされる方はいない。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	・基本的にオムツは使用しない。(やむを得ない場合を除く)紙パンツも出来るだけ使用せず、安心パンツや布パンツで対応している。個々の排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄して頂けるよう随時トイレ誘導している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限りご希望に沿った入浴支援をしている。 ・時間にこだわらず、状況に応じて入浴して頂いている。 		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・閉じこもりにならないように注意しながら、日中は自由に過ごして頂くようにしている。生活リズムの判断が困難な方には必要に応じた支援をしている。 ・リビングにソファや畳を置き、休息できるスペースを提供している。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・その方の力を活かした役割を見つけ、日課として行って頂いている。 ・誕生日会や月に一度の行事を行い楽しんで頂いている。 ・散歩や外出に寄り添い、気晴らしの支援をしている。 		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・希望や能力に応じてご本人に管理して頂いている。 ・必要に応じて買い物ができるよう、ご家族にも協力を仰いでいる。 		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物に同行して頂いたり、散歩やドライブ、花の水やりや日向ぼっこ等、少しでも戸外に出ることが出来るよう工夫し、又、可能な限り希望に沿った外出支援をしている。 		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・外出行事として遠出をしたり、仲の良い数人でお弁当を持って出かけたりし、ご家族や皆で楽しんで頂ける機会を提供している。 ・行事にこだわらず出来る限り外出の機会を作っている。 		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ご希望に沿って電話をかけて頂いたり、取次ぎを行っている。 ・手紙を書かれる方はポストまで一緒に出かけ、ご本人様が投簡出来るよう支援している。 		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者と心地よく過ごせる場所や雰囲気作りを工夫し提供している。又、馴染みの方がお帰りの際は各階の玄関までお見送りし、必要に応じて1階玄関までお見送り出来るよう支援している。 		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束防止委員会によるケースに応じたミーティングを行い、身体拘束をしないケアをしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングや勉強会等に参加し、正しく理解したうえで、さらに認識を深めていく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・施錠はしていない。 ・入口に鳥の声のセンサーを設置し、出入りの際に注意をはらせる環境を作っている。 		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・入室時には必ずノックをして入室している。 ・不在の場合でも「失礼します」と声をかけて入室している。又は事前に許可を得て入室している ・夜間は定期的に巡回し安全確認をしている。 		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	・各ユニットの状況に応じた物品の配置をしている。 ポットをキッチン内に納めて使用したり、鉢植えの土部分にネットをかぶせたりして、対応できる範囲で危険を防ぐ取り組みをしている。		リスク管理・リスクマネジメントに積極的に取り組んで行く。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	・個々の緊急対応マニュアルを作成し、個別記録に綴じている。		・職員は知識を学び、一人一人の状態に応じた事故防止に取り組んでいく必要がある。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	・内部研修で緊急時の対応について学習している。		・消防による心肺蘇生法等、緊急時の初期対応を学び、定期的に訓練を行う必要がある。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	・グループホーム内での消防訓練は定期的に行っているが、地域への働き掛けは行えていない。		・地域の方々と防災・災害時の対策について話し合いの機会を作っていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	・状況に応じてその都度ご家族に説明をし、解決策を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	・日頃からしっかりと個々の状態を把握し、小さな変化も見逃さないよう努めている。 ・報告・連絡・相談を心掛け、速やかに対応できるように努力している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全入居者様の状況を全職員が十分には理解できていないが、必要に応じて把握するよう努めている。 ・薬が変更になった際は、都度記録に残し全職員が症状の変化を確認・把握できるようにしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の薬について、常に把握する努力をしていく必要がある。
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食時の牛乳提供をはじめ、繊維質の多い食事や飲み物を提供している。 ・定期的に体を動かして頂く働きかけをしている。 ・排便コントロールには医師との連携を図っている。 		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後歯ブラシを用意し、声掛け・見守りにて口腔ケアを支援している。 ・ご自身で十分に磨けない方には職員が状態に応じた支援をしている。 		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の水分摂取量を記録し、一日 1,000ml 以上を確保して頂けるよう目指している。 ・栄養摂取については状況に応じ、個別に好みの物を提供し目標達成を目指している。 		
78	<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各マニュアルを作成し、回覧後ファイルにまとめている。 ・来訪者にも感染対策のご協力を仰いでいる。 ・職員はマニュアルを実行し、徹底した予防に取り組んでいる。 		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キッチン内感染対策マニュアルに沿った衛生管理をしている。食品別に用品を区別使用し、定期的な消毒をはじめ、冷蔵庫内も食品別に収納場所が決められている。 ・新鮮で安全な食材の提供に努め、食品の在庫は極力置かないようにしている。 ・感染症対策委員会を定期的に開催している。 		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1階がデイサービスの為、案内を掲示している。 ・入居者全員の表札を掲げている。 ・花壇に花を植えたり、少しでも在宅の雰囲気が出せるよう工夫している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・花壇の手入れ等今後も行っていく。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングに花を飾ったり、クリスマスや七夕等、季節の飾り付けをしている。 ・畳のスペースを設け、少しでも家庭の雰囲気に近づける工夫をしている。 		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファでくつろいで頂いたり、畳のスペースには本棚で目隠しをし、周囲を気にせずゆっくりと過ごして頂けるよう工夫している。 		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・居室内の家具や持ち物等は、ご本人の使い慣れた物をお持ち頂くようお願いし、なるべく以前のお住まいに近い形で過ごして頂けるようにしている。 		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・共有スペースはもちろん、こまめに居室を訪問し、温・湿度を適温に保つようになっている。 ・職員は換気・空調全般への配慮を欠かさないうよう努めている。 		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすトイレの設置位置や手すりは、安全に身体機能を活かせる作りになっている。 ・廊下や浴室等に手すりを設置し安全に自立した生活が送れるようにしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・リビングの椅子やテーブルの高さを、一人一人に合わせて調節し、正しい姿勢で食事が出来るようにしている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ること・得意なことをやって頂き、自信をつけ、自立した生活を送って頂けるように支援している。 		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・花壇に花を植えて、水やりや手入れ等を入居者の日課としている。 ・野菜を植え、収穫する楽しみを感じて頂けるようにしている。 		